
バカとテストと恋物語？

つりしん3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと恋物語？

【Nコード】

N6293Z

【作者名】

つりしん3

【あらすじ】

ある日、転校してきた二人の男と女、男の名は工藤修也。本来ならAクラス入り確実だったがめんどくさいと言ってテストを受けなかったため、Fクラスになった。

こいつらが織り成す恋の行方はいかに!?

オリキャラ設定

工藤 修也くわい しゅうや

容姿

顔はまあまあイケメン。髪は茶色がかった黒で、目は黒

性格

普段はテンション低め、アホっぽい

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

168cm

体重

50kg前後

得意教科

古典以外

苦手教科

古典

召喚獣

執事服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は日本刀

備考

父が外人で母が日本人のハーフ、そのため髪が微妙な色、本人いわくコンプレックス。文月学園に転校してきた。その理由は単に面白そうだからという単純な理由。Fクラスになったのは、面倒だとい

ってテストをほっぽりだしたため。成績はAクラス並。姫路のことが好き。本作品の主人公。

桐谷 汐きりたに しおり

容姿

一言で言うと美少女。髪と目は茶色、

性格

普段からテンション高め、アホ毛がある、

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

150?

体重

40kg

得意教科

理数系

苦手教科

それ以外

召喚獣

メイド服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は大型のピストル

備考

明久とは、いとこの関係である。修也とは幼馴染。髪がきれいな茶髪なため、中途半端な髪をいじめている。文月学園に転校してきた。その理由はいじる対象がいなくなりたくなかったため、修也を追い転校してきた。Fクラスになったのは面白そうだからとい

う理由で名前を書かなかったため。成績はAクラス並。

第1問 転校生(前書き)

さっそくはじまりました。第1話、こんな小説を読んでいたばかりがとつございます。

第1問 転校生

西村先生「えー、突然だがここでこのクラスに新しい仲間が増える。」

鉄じ・・・じゃなかった西村先生が衝撃的なことを言った。

FFF団「こんな微妙なときにか？」

「女だといいな」

明久「どんなひとなんですか？」

西村先生「九州から来たらしい」

九州か〜たしかあいつがいたのも九州だったはず・・・

FFF団「男ですか？女ですか？」

西村先生「両方だ」

FFF団「両方？おかまか？」

明久「ねえ、雄二。両方っておかまのこと？」

雄二「んなわけねえだろ。男一人と女一人以上ってことだ」

明久「さすが雄二、元神童なだけはあるね」

雄二「それくらい理解しろよ・・・」

雄二とそんな話をしていると転校生が入ってきた。

えっ、あれって・・・

汐「こんにちは〜九州から来ました。桐谷汐です。」

FFF団「美少女〜」

汐「ってあれ？アキくん？」

汐が僕の方を向く。ついでにFFF団のみんなも僕の方を向く。

雄二「明久、お前の知り合いか？」

明久「雄二、知り合いも何も僕と汐はいとこだもん。」

ヒュン

今僕の顔の横をカッターが通り過ぎたような……

FFF団「ちっ……はずしたか……」

雄二「いどこ？お前と桐谷がか？全く似てねえな……」

美波「そうよ、アキ。桐谷さんは美少女だけどアキはねえ……」

ひどいよ、美波……

汐「アキ君、久しぶり〜」

汐が僕に抱きついてきた。

ヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュン
すると、たくさんの刃物が飛んできた。

明久「畳替えし!!!」

はあ〜危ない。

西村先生「あーお前らもう一人いるんだが……」

あ、忘れてた……

西村先生「では、工藤、自己紹介してくれ」

修也「えー汐と同じ学校からやってきました。工藤修也です。前の

学校では汐と付き合い合っていました。」

付き合い合ってただってそれは・・・
死刑宣告だ・・・

どうせ僕も追われるんだ・・・
工藤さんに教えてあげなきゃ・・・

明久「工藤君・・・」

修也「ん？」

明久「今、付き合い合ってたっていったよね・・・」

修也「ああ」

明久「それは・・・」

修也「それは？」

明久「死を受け入れてるようなもんだ!!」

修也「えっ!？」

FFF団「Let's party!!!」

僕たちのほうに刃物が飛んでくる。

まずい、これは逃げなきゃ・・・

明久「逃げるよ。工藤君。」

修也「あ?うん、分かった。」

秀吉「また始まったのう」

雄二「ああ、そうだな」

そんな秀吉たちの声を聞いたところで僕たちは屋上に逃げた。
あぶないよ・・・

明久side out

修也side in

明久「大丈夫？工藤君？」

修也「ああ大丈夫だ。さつきはありがとな。」

明久「さつき？」

修也「死の宣告を教えてください」

明久「あああれねいつものことだから・・・」

いつものことなのか・・・

そんなこんなでこの日は終わった・・・

第1問 転校生（後書き）

どうでしたか？第一話、はじめてなのでダメだしなどがあったら入ってください。

次はみんなの自己紹介です。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（前書き）

修也「おれはこんな学校にきてよかったのか……？」

P・S・面倒なのでセリフの前の人名はこうします。

明久 明 雄二 雄 美波 美 姫路 姫 秀吉 秀 ムツツリ

二ム

修也 修 汐 汐 美春 清 久保 久 愛子 愛 優子 優

翔子 翔 鉄人 鉄 葉月 葉

などそんな感じですよ。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争

次の日の朝おれが学校に行くと馬鹿がいた。もとい、Fクラスの面々がいた。

明「修也、今僕たちのことバカにしたよね？」

こいつは人の心が読めるのか？

修「ああ、そうだが。」

雄「当たり前だろ、おれ達は最低のFクラスだぞ。バカなのは当然だ。」

こいつはクラス代表らしい。

明「ところで、修也はみんなに自己紹介してないよね。」

修「ああたしかにそうだな。」

明「おい、みんな、修也が挨拶したいって。」

ま、おれはそんなこといってないけど……

明「みんな、まずは自己紹介して。」

雄「おれは坂本雄二よろしくな。呼び方は代表でも雄二でもなんでもいい。」

秀「わしは木下秀吉じゃ。言うておくがわしはれっきとした男じゃ。」

男？こいつが？どう見ても女だろ？

瑞「私は姫路瑞希です。趣味は料理です。」

それを聞いた瞬間、男たちが顔を引きつらせた。気がした……
ま、気のせいか……

美「ウチは島田美波、ドイツからの帰国子女よ。趣味は……」

可愛い女の子だと思った。が、次の瞬間おれからその感情は消えう
せた。

美「吉井明久を殴ることです。」

修「それはどういうこと？」

美「みせてあげるか？」

すると、島田は指をボキボキ鳴らし始めた。

明「や、やめてよ。美波。」

修「もういいです。」

美「そう？楽しみだったのに……」

これ以上は明久がかわいそうなので止めておいた……
てか、楽しみにすんなよ……

明「次はムツツリー二だね。」

修「ムツツリー二って？外国人？」

明「ムツツリー二っていうのは愛称で本名は……」

ム「……土屋康太……」

ま、みんなムツツリー二っていつてるしムツツリー二でいいや。

えーと、坂本と木下と島田さんと姫路さんとムッツリーニか・・・
あ、あと明久・・・忘れてた・・・
すると、雄二が変なことを言い出した。

雄「今、おれたちはAクラスに試召戦争を仕掛けてるんだ。」

修「試召戦争？なんだそれ？」

明「あ、そうか修也は知らないんだもんね。」

雄「試召戦争は召喚獣で戦う戦争だ。」

修「召喚獣？」

もうなんのことだか分からん・・・

雄「試召戦争ってのは他のクラスと召喚獣で戦って勝ったらこのボ
口設備と他のクラスの設備と交換することだ。で召喚獣ってのがそ
の戦いに使う自分の化身みたいなものだ。」

へえー

明「で召喚獣の強さは点数で決まる。」

修「へえー点数でってFクラスって一番不利じゃん！」

なのにこいつらは戦争を仕掛けたって言うのかよ・・・

修「勝算はあるのか？坂本・・・」

雄「おれのことば雄二でいい。あああるともこっちは姫路がいる
からな・・・」

姫路？姫路がどうしたんだろう？

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（後書き）

ここまでになります。長いと読者の皆さんも疲れると思うので・・・

第3問 試召戦争勃発！！！（前書き）

第2問の続きです。

修「姫路がどうかしたのか？」

第3問 試召戦争勃発！！！！

雄「姫路はAクラス並の成績だからな。」

修「へえ〜ってなんでこんなところにAクラス並の奴がいるんだよ。」

Aクラス並だつて？

明「姫路さんは途中退席で0点なんだ〜」

雄「で、決戦は今日の午後だ。」

修「へえ〜って後30分しかないよ!?!?」

こいつらそれなのにこんなに余裕でいいのか？

雄「試合形式は5対5で3ゲーム先にとつたほうの勝ちだ。」

秀「わしらは勝てるか心配じゃの〜」

瑞「大丈夫ですよ、私たちなら勝てますよ」

.....数時間後.....

高「それではこれからAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を行います。1人目は前に.....」

秀「では、わしが行こうかの〜」

優「じゃあ私が行くわ.....」

彼女は明久曰く秀吉のお姉さんらしい.....

優「ちよつと秀吉来なさい。」

秀吉が連れてかれた・・・

数分後、秀吉は戦えないほどボロボロになっていた・・・
なので、代わりに明久が出ることになった。

ああ、負けたな・・・この試合・・・

優「だれでもいいわ。教科は現国で・・・」

高「承認します。」

Aクラス 木下優子 現国 367点

vs

Fクラス 吉井明久 現国 ??点

明久の点って何点だろ・・・

Fクラス 吉井明久 現国 76点

勝負は一瞬でついた・・・

高「勝者 Aクラス 木下優子」

明「ごめん、勝てなかった・・・」

雄「大丈夫だ、お前に期待は最初からしてない。」

ま、そりゃそうだろ・・・

明「ひどいよ、雄二!!」

こうして1回戦はAクラスの勝利で終わった・・・

第3問 試召戦争勃発！！！（後書き）

汐「私の出番あるかしら・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293z/>

バカとテストと恋物語？

2011年12月23日01時51分発行